

英国諸島系	44.6%
フランス系	28.7%
その他のヨーロッパ系	23.0%
イタリア系	3.4%
ウクライナ系	2.7%
オランダ系	2.0%
アジア系	1.3%
中国系	0.6%
日系(約37,000人)	0.2%
その他(エスキモーなど)	2.4%

英語	66.97%
フランス語	25.71%
イタリア語	1.97%
ドイツ語	0.99%
ウクライナ語	0.67%
インディアン語、エスキモー語	0.64%
ギリシア語	0.40%
中国語	0.36%
ポルトガル語	0.35%

が中心になって作成したバイリンガリズムに関するレポートが、今年の八月、政府に提出されたが、そこでは連邦職員がこれまでに達成したのはバイリンガリズムの名に値いせず、初歩的な学習段階に過ぎない、と極めてきびしい批判を行っている。だが、政府はこうした批判にたじろぐことなく、これまでの行き方を押し進め、初歩的であろうと、不完全であろうと、ともかくバイリンガアル人口を、まず、連邦職員の間、さらに長期的には国民全体の間を増やしていこうとしている。

そうした連邦政府の意向を反映してか、この数年、カナダのマス・メディアあるいは教育の分野で、フランス語を重視する傾向が強まってきている。英語系カナダの主要都市には、今やフランス語のテレビのチャンネルが一つはおかれるようになった。私はどうも確かではないのだが、フランス語のチャンネルは英語のチャンネルよりもホッケーの中継番組が多いという人がいる。そうだとしたら、ホッケー好きの英語系カナダ人に、自然とフランス語に慣れる機会を与えていることになるとのことも知れない。

CBCの英語のチャンネルにも「モナミ」という子供向けのバイリンガアル番組がある。ここに登場する大人はフランス系人は仏英両語、英語系人は英語のみ子供たちはたどたどしいが両語を話すような構成になっている。ある意味ではカナダの現実を反映しているわけである。日本でもおなじみの「セサミ・ストリート」は、カナダの英語のチャンネルでは一時間番組の中の十五分ぐらいがフランス語の歌や踊り、あるいは簡単な表現や数

字をフランス語で学ぶように仕組まれている。こうすることによって、英語圏の子供たちが幼少の頃からフランス語の音に慣れ、何よりも、カナダの別のところにフランス語を話している子供たちがいるのだということに、気付かしめるのである。こうした子供たちが成長した頃のカナダでは、今日よりは相当に高い割合のバイリンガアル人口が存在し、異文化に対してより理解を示す人が増えているであろう。

英語系カナダで、フランス系カナダの言語や文化に対する理解や関心は、徐々にではあるが高まってきているように思われる。そうした変化は食物の好みなどにも見られる。フランス系カナダにはすばらしいフランス料理店が多いのに、カナダの西部諸州ではフランス料理のまともなレストランは最近まで少なかった。私がある程度知っているアルバータ州なども、総人口一七〇万の中、フランス系人はわずか二万数千ということもあって、州都エドモントンにはこれというフレンチ・レストランはなかった。外で食べる最高の御馳走といえば、ステーキとロブスターという感覚が固定化していたところが、この一、二年の間に、本格的なフランス料理店が生れるようになり、それが多くの客を集めるようになってきている。こうした現象も、若い世代が異文化に対してより深い関心を示すようになった結果かも知れない。

**多文化主義**

近年のカナダでは二言語・二文化主義とならんで、多文化主義ということがよく口にされる。これは公用語である英仏両語に対して、ドイツ系、ウクライナ系な

どの少数民族集団の言語に、民衆語(ブライウエート・ランゲージ)としての地位を与え、その言語と文化的伝統を維持、発展させようとする動きである。多くの州政府は、この民衆語を幼稚園から大学に至るレベルで教えることを支援しようとしているし、民衆語による新聞、テレビ番組、あるいは少数民族集団の文化活動に対しては、州政府、連邦政府とともにそれらを支援する姿勢を示している。

今日のカナダの総人口の二八%は、英仏系以外の世界の様々な民族とその子孫で構成されている。こうした民族文化的な多様性を積極的な価値として評価し、それを維持、発展させようとするのが多文化主義であり、その確立にあたっては少数民族集団の権利を多数社会と公権力に認めさせた、ウクライナ系人の大きな貢献があった。今日、ヨーロッパやアジアやカリブ海からの諸移民集団は、その文学、演劇、音楽、舞踊などを維持していくのに、各州政府から大きな支援を得ている。しかし、問題は、次の世代で誰がそうした様々な民族文化の継承者となるかということである。

今や、英語系カナダでは、世代の進行とともに、諸移民集団の中でアングロ的文化への同化が急速に進み、また、異なった民族集団に属する個人のあいだでの混雑が進行し、民族語や民族文化の維持が次第にむずかしくなってきた。日系人社会でも、他のカナダ人との婚姻が多くなり、日本語や日本の文化伝統は日々

に薄れつつある。カナダの中でも、日系人のアングロ化が最も進行したアルバータ州南部では、日系の二世、三世同志の婚姻は一九六〇年以後、急速に減少し、一九七〇年代に入ると、日系人の新たな婚姻の実に八〇%以上が非日系のカナダ人を相手とするものとなった。ここでは、日系人の多数社会への統合が、見事なまでに実現されているのである。

こうした状況下では、日系人の間で日

**VOUS AVEZ LA PAROLE**

**NOW YOU'RE TALKING**

C'est exact. Le "protecteur des langues" nommé par le Parlement est là pour défendre l'égalité du français et de l'anglais comme langues officielles dans toutes les institutions et entreprises fédérales. Si vous avez des remarques ou des problèmes, il est tout oreilles.

And Parliament has given you a sympathetic listener - a "language ombudsman". His job is to uphold the equality of English and French as official languages in all Federal agencies and Crown Corporations. If you have any comments or problems, he's all ears.

Ecrivez-lui. Write.

COMMISSAIRE AUX LANGUES OFFICIELLES, OTTAWA. COMMISSIONER OF OFFICIAL LANGUAGES, OTTAWA.

Ou téléphonez à frais virés. Or telephone collect.

(613) 966-6365 (613) 966-6365